



総会も終わり一段落したが、協同労働×SDGsのプロジェクトが始まり、法制化に向けて与党ワーキングチームの動きが加速し、国際協同組合デイでは協同組合間連携の推進、新たに労協連加盟希望団体との懇談も相次ぐなど、慌ただしい日々が続いている。

協同労働×SDGs推進本部では、「学びと育ちの探究プロジェクト」(7/2)、「地域循環型経済・金融研究プロジェクト」(7/4)をそれぞれ開催。学びと育ちの探究では、菅間正道先生(自由の森学園)をお呼びし、とどまることを知らない学力競争のなか、自分作り・仲間づくりをめぐる困難、ネット社会・消費社会の拡充と浸透などの具体的な話を伺い、この状況に向きあうために重要な教育実践として、学びあい・支え合い・関わり合いなど、ともに「～しあう」相互交渉と互惠の関係づくり(相互応答関係)を学ぶ。金融研究では長谷川勉さん(日本大学商学部教授)より「協同組織型ソーシャルバンクの位置と機能～エチカバンクを中心として」をテーマに、イタリアの倫理銀行(エチカバンク)を事例に、意志あるお金の投資や貯蓄のあり方、また組合員参加型運営について話をいただく。

法制化に関しては、与党協同労働の法制化に関するワーキングチームより、本部でのヒアリング、実務者会議で名称や組合員割合などを検討し、国会が終わっ

た直後に再度招集があり「労働者協同組合法案」(仮称)骨子素案をまとめる段階にまで到達した。

国際協同組合デイ(7/10)では、古村理事長やセンター事業団中四国事業本部竹森本部長が登壇し、法制化の状況等を伝えると同時に、「広島市協同労働プラットフォーム」の実践やJAとの連携にも大きな関心が集まり、交流会や翌日の都道府県協同組合連携組織等全国交流会議などでもさまざまな協同組合より声を掛けてもらい、今後の具体的な地域での連携を検討する。

新たに加盟を希望する団体とも懇談しており、日雇い労働者と共に働く団体とワーカーズコープづくりに挑戦したり、障がい者と共に働く団体とは長年に渡り協同労働について意見交換を重ねてきており、加盟についても検討が始まる。設備技術者でワーカーズを立ち上げたグループや、旅行代理店で労働者協同組合を名乗り運営してきた団体とも懇談し、協同労働の働き方や地域での連携について話し合う。

法制化時代を予感させる、協同労働への共感や期待が少しずつ広がっており、加盟組織と共に懇談を繰り返し、自分たち自身の協同労働の実践や価値を考え伝えると共に、連携することで新たな地域課題へ挑戦していく、そんな動きを目指したい。